

令和3年7月1日

市内中学校・小学6年生保護者 各位

総社市教育委員会

新型コロナウイルスワクチンに関する情報の提供について

総社市では、希望する市民の皆様に対して、新型コロナウイルスワクチンが接種できる機会の早期の提供と、より安心して接種できる体制の充実に取り組んでおります。

ワクチン接種は任意であり、その効果やリスクを考えて各自がご判断いただくものですので、今後の接種検討に際して参考となる情報を提供させていただきます。

新型コロナウイルスワクチン接種については、様々な情報が溢れており、ご不安もあるかと思いますが、この資料など、国（厚生労働省）が示す公式な見解や、科学的根拠に基づく説明等をご確認のうえご判断いただきたいと思います。また、接種を行う際の留意すべき点についても参考にしてください。

なお、以下の情報は国（厚生労働省）が示す「新型コロナワクチンQ&A」から、児童生徒のワクチン接種に特に関係の深いものを抜粋したものです。国（厚生労働省）のホームページ等に、より詳細な内容が掲載されており、随時最新のものに更新されていく予定ですので参考にしてください。

新型コロナワクチンQ&A

（厚生労働省コロナワクチンナビ <http://www.cov19-vaccine.mhlw.go.jp/ga/>から抜粋）



1) ワクチンの仕組み

Q 1. ワクチンにはどのようなものがあるのですか。

Q 2. 集団免疫とは何ですか。

Q 3. 筋肉注射とはどのような注射でしょうか。痛いのでしょうか。

2) ワクチンの効果

Q 4. 日本で接種が進められている新型コロナワクチンにはどのような効果（発症予防、持続期間）がありますか。

Q 5. 年齢によって、ワクチンの効果や副反応に違いはありますか。

Q 6. 持病の有無によって、ワクチンの効果や副反応に違いはありますか。

Q 7. ワクチン接種後に新型コロナウイルスに感染することはありますか。

Q 8. 変異株の新型コロナウイルスにも効果はありますか。

3) ワクチンの安全性と副反応

Q 9. ファイザー社のワクチンと、武田/モダナ社のワクチンの安全性の違いはありますか。

- Q10. これまでに認められている副反応にはどのようなものがありますか。
- Q11. 副反応は1回目より2回目の接種後の方が強いと言われるのはどうしてですか。
- Q12. ワクチンを受けた後に熱が出たら、どうすれば良いですか。
- Q13. アナフィラキシーではどのような症状が出ますか。治療法はありますか。
- Q14. 接種後の「失神」や、その原因ともいわれる「血管迷走神経反射」とは何ですか。
- Q15. ワクチン接種後にくも膜下出血や急性大動脈解離が起きたと聞いたのですが、ワクチンとの関連はあるのでしょうか。
- Q16. mRNA（メッセンジャーRNA）ワクチンはワクチンとして遺伝情報を人体に投与するというこ
とで、将来の身体への異変や将来持つ予定の子どもへの影響を懸念しています。
- Q17. 副反応による健康被害が起きた場合の補償はどうなっていますか。

4) 私は接種できますか？

- Q18. ワクチンを接種することができないのはどのような人ですか。
- Q19. ワクチンを接種するのに注意が必要なのはどのような人ですか。
- Q20. 私は持病を持っていますが、ワクチンを接種することができますか。
- Q21. 過去にアレルギー反応やアナフィラキシーを起こしたことがあり、今回も起こすので
はないかと心配なのですが、接種を受けても大丈夫でしょうか。
- Q22. 新型コロナウイルスに感染したことがある人は、ワクチンを接種することはできますか。

5) 接種を受ける方法

- Q23. 接種券に有効期限はありますか。ワクチン接種を一度見送りましたが、後日、接種を
受けたいと考えています。
- Q24. 「基礎疾患を有する者」に当てはまることを証明するために、診断書は必要ですか。
- Q25. 未成年の接種の場合、親の同意書は必要ですか。

6) 対象者や優先順位

- Q26. 子どもはワクチンを接種することができますか。
- Q27. 新型コロナワクチンの接種を望まない場合、受けなくてもよいですか。

7) 接種後の生活

- Q28. ワクチン接種後、生活上で注意することはありますか。
- Q29. ワクチンを接種した日は、お風呂に入れますか。
- Q30. ワクチンを接種した後も、マスクは必要ですか。

8) その他

- Q31. 今回のワクチン接種の「努力義務」とは何ですか。
- Q32. SNS やニュースでコロナワクチンが危険と取り上げられていて不安です。どの情報を
信じたらいいのでしょうか。
- Q33. ワクチンを接種する前にすでに免疫で守られている可能性はありますか。

1) ワクチンの仕組み

Q 1 ワクチンにはどのようなものがあるのですか。

A 病原体（ウイルスや細菌など）そのもの又は、病原体を構成する物質などをもとに作ったワクチンを接種することで、その病原体に対する免疫ができます。具体的には、以下のようなものがあります。

- ・ 生ワクチン

病原性を弱めた病原体からできています。接種すると、その病気に自然にかかった場合とほぼ同じ免疫力がつくことが期待できます。一方で、副反応として、軽度で済むことが多いですが、その病気にかかったような症状が出る場合があります。

代表的なワクチンとしては、MR ワクチン（麻しん、風しん）、水痘（みずぼうそう）ワクチン、BCG ワクチン（結核）、おたふくかぜワクチンなどがあります。

- ・ 不活化ワクチン、組換えタンパクワクチン

感染力をなくした病原体や、病原体を構成するタンパク質からできています。1回接種しただけでは必要な免疫を獲得・維持できないため、一般に複数回の接種が必要です。

代表的なワクチンとしては、四種混合ワクチン（ジフテリア・百日せき・破傷風・不活化ポリオ）、二種混合ワクチン（ジフテリア・破傷風）、日本脳炎ワクチン、インフルエンザワクチン、B型肝炎ワクチン、肺炎球菌ワクチン、ヒトパピローマウイルスワクチンなどがあります。

- ・ mRNA（メッセンジャーRNA）ワクチン、DNA ワクチン、ウイルスベクターワクチン

これらのワクチンでは、ウイルスを構成するタンパク質の遺伝情報を投与します。その遺伝情報をもとに、体内でウイルスのタンパク質を作り、そのタンパク質に対する抗体が作られることで免疫を獲得します。

今回、新型コロナウイルスの表面にあるタンパク質に対するワクチンが国内外で承認を受け、日本でも接種が開始されています。

Q 2 集団免疫とは何ですか。

A 人口の一定割合以上の人が免疫を持つと、感染患者が出ても、他の人に感染しにくくなることで、感染症が流行しなくなる状態のことです。

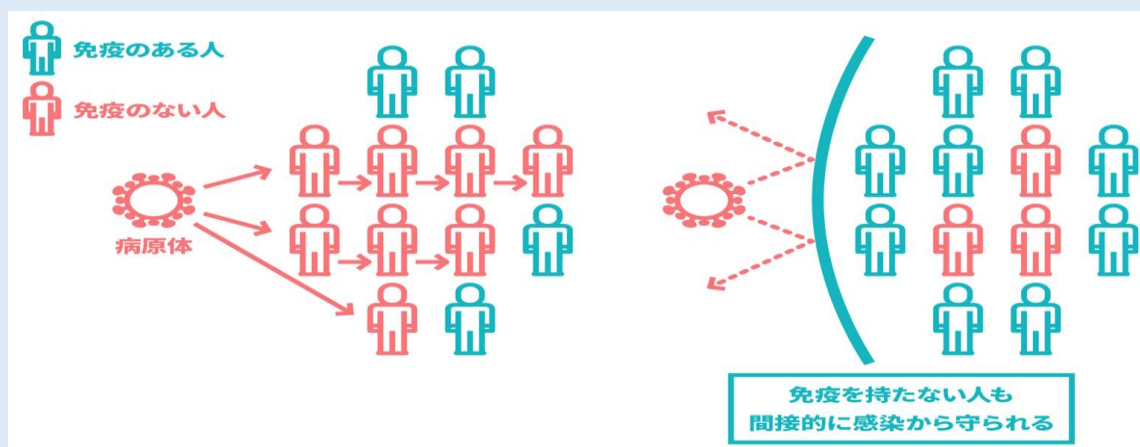
感染症は、病原体（ウイルスや細菌など）が、その病原体に対する免疫を持たない人に感染することで流行します。ある病原体に対して、人口の一定割合以上の人が免疫を持つと、感染患者が出ても、他の人に感染しにくくなることで、感染症が流行しなくなり、間接的に免疫を持たない人も感染から守られます。

この状態を集団免疫と言い、社会全体が感染症から守られることになります。

なお、感染症の種類によって、集団免疫を得るために必要な免疫を持つ人の割合は異な

ります。また、ワクチンによっては、接種で重症化を防ぐ効果があっても感染を防ぐ効果が乏しく、どれだけ多くの人に接種しても集団免疫の効果が得られないこともあります。

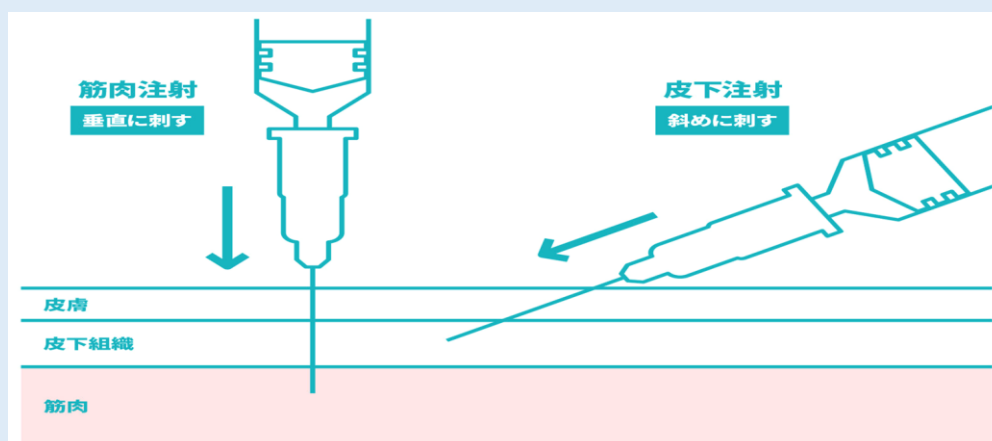
新型コロナワクチンによって、集団免疫の効果があるかどうかは分かっておらず、分かるまでには、時間を要すると考えられています。



Q3 筋肉注射とはどのような注射でしょうか。痛いのでしょうか。

A 筋肉注射とは、ワクチンなどの医薬品を皮下脂肪の奥にある筋肉に注射する方法のことを指します。一般的に筋肉注射は皮下注射よりも特別に痛みが強い注射方法ではないと考えられています。

ファイザー社のワクチン及び武田／モデルナ社のワクチンは、通常、肩の筋肉（三角筋）に接種を行います。筋肉は皮膚と比べて痛みを感じる神経が少ないともいわれており、皮下注射と比べて痛みが強いという証拠はありません。世界的にはインフルエンザワクチンなども、筋肉注射で行われている例が多くあります。皮下注射と筋肉注射を比べた臨床研究では、筋肉注射は皮下注射に比べてむしろ、注射した部位の痛みといった局所反応が少なかったという報告もあります。



2) ワクチンの効果

Q 4 日本で接種が進められている新型コロナワクチンにはどのような効果（発症予防、持続期間）がありますか。

A 日本で接種が行われている新型コロナワクチンは、いずれも、新型コロナウイルス感染症の発症を予防する高い効果があり、また、重症化を予防する効果が期待されています。

効果の持続期間や、感染を予防する効果についても、時間の経過や接種者数の増加に伴い、研究が進んでいます。

日本では現在、ファイザー社、武田／モデルナ社、及びアストラゼネカ社のワクチンが薬事承認されており、うち、ファイザー社と武田／モデルナ社のワクチンが、予防接種法における接種の対象となっています。

いずれのワクチンも、薬事承認前に、海外で発症予防効果を確認するための臨床試験が実施されており、ファイザー社のワクチンでは約95%、武田／モデルナ社のワクチンでは約94%の発症予防効果が確認されています。

重症化予防効果については、薬事承認前に行われた臨床試験では症例数が十分ではなく解釈に注意が必要ですが、実施された臨床試験や、承認後に実際に接種された人の情報を集めた研究等から、これらのワクチンの重症化予防効果を示唆する結果が報告されており、効果が期待されています。

感染を予防する効果については、ファイザー社、武田／モデルナ社、いずれも承認前の臨床試験では確認されていませんが、現在、多くの国又は地域でこれらのワクチンの接種が進められることでデータが蓄積されつつあります。一部の国で実施された研究では、ワクチンを接種した人の方が、接種していない人よりも感染者（有症者・無症候性感染者のいずれも）の発生が少ないことを示唆する結果が報告されています。

なお、これらのデータは臨床試験と異なり、同じ条件の対照群を置くことが困難なこと等から、結果に偏り（バイアス）が生じやすいことに注意して解釈し、今後の様々な研究結果を見ていく必要があります。また、ワクチンの発症予防効果は100%ではないことを踏まえると、接種後も引き続き、感染対策を継続することが重要です。

効果の持続期間については、例えばファイザー社のワクチンの場合、海外で実施された臨床試験後の追跡調査の結果によると、2回目接種後6ヶ月の発症予防効果は91.3%であったという報告もあります。また、武田／モデルナ社のワクチンの場合、同様の調査において、2回目接種後6ヶ月の発症予防効果は90%以上と発表されています。今後も引き続き、集積される様々なデータを見ていく必要があります。

Q 5 年齢によって、ワクチンの効果や副反応に違いはありますか。

A 今回のワクチンは高齢者に対しても高い発症予防効果があります。一方、若年者に比べて高齢者の方が少し副反応が出にくいことが分かっています。

従来のワクチンでは、高齢者は若い方に比べてワクチンの効果が劣る場合があります。しかし、日本で承認されたファイザー社のワクチンでは、大規模な臨床試験やイスラエルの実社会での疫学研究において、高齢者に対しても9割以上の発症予防効果があることが報告されています。また、武田／モデルナ社のワクチンについても、海外での臨床試験において、65歳以上で約9割のワクチン有効率が報告されています。

一方、副反応については、接種部位の局所の副反応も、発熱や倦怠感、頭痛などの全身性の副反応も、若年者より高齢者の方が少し頻度が低いことが報告されています。

Q 6 持病の有無によって、ワクチンの効果や副反応に違いはありますか。

A 今回のワクチンは、基礎疾患をもっている方に対しても高い効果があることが分かっています。過去に重いアレルギー症状を経験されたことがある方は、接種会場で30分間様子をみるのが大切です。

日本で承認されたファイザー社及び武田／モデルナ社の新型コロナワクチンは、高血圧、糖尿病などの基礎疾患をもっている方に対しても、高い発症予防効果があることが分かっています。ただし、免疫抑制剤を内服されている方や重い免疫不全がある方は臨床試験の対象とはなっておらず、他の方と同等の効果があるのか、はっきりとは分かっていません。

稀な副反応であるアナフィラキシーについては、過去にアナフィラキシーを含む重いアレルギー症状を引き起こしたことがある人でやや起こりやすい可能性があります。過去に重いアレルギー症状を引き起こしたことがある方は、ワクチン接種後 30 分程度は接種会場で様子をみるのが大切です。アナフィラキシー以外の副反応については、臨床試験において基礎疾患の有無による頻度の違いは報告されていません。

Q 7 ワクチン接種後に新型コロナウイルスに感染することはありますか。

A ワクチン接種後でも新型コロナウイルスに感染する場合があります。また、ワクチンを接種して免疫がつくまでに1～2週間程度かかり、免疫がついても発症予防効果は100%ではありません。

ファイザー社の新型コロナワクチンは、通常、3週間の間隔で2回接種します。最も高い発症予防効果が得られるのは、2回目を接種してから7日程度経って以降です。体の中である程度の抗体ができるまでに1～2週間程度かかるため、1回目の接種後から2週間程度は、ワクチンを受けていない方と同じくらいの頻度で発症してしまうことが論文等でも報告されています。また、臨床試験においてワクチンを2回接種した場合の有効率は約95%と報告されており、100%の発症予防効果が得られるわけではありません。

武田／モデルナ社の新型コロナワクチンは、通常、4週間の間隔で2回接種します。臨床試験において、本ワクチンの接種で十分な免疫が確認されたのは、2回目を接種してから14日以降となっています。また、ワクチンを2回接種した場合の有効率は約94%と報告されており、ファイザー社の新型コロナワクチン同様、100%の発症予防効果が得られるわけではありません。

Q 8 変異株の新型コロナウイルスにも効果はありますか。

A 一般論として、ウイルスは絶えず変異を起こしていくもので、小さな変異でワクチンの効果がなくなるというわけではありません。それぞれの変異株に対するワクチンの有効性がどのくらいあるのかについても、確認が進められています。

現在世界中で懸念されている変異株とは、新型コロナウイルスがヒトの細胞へ侵入するために必要となるスパイクタンパク質（1,273個のアミノ酸残基で構成）の一部が変化することで、ウイルスの感染性や病原性、ワクチンの有効性等に影響を与えることが懸念されるものを指しています。

変異株に対するワクチンの効果の確認に当たっては、いくつかの方法があります。

一つは、ワクチンを接種した人の血清を用いて、血清中に存在する抗体が、ウイルスの細胞への感染をどの程度中和する（妨げる）ことができるかを測定する方法です。

ファイザー社や武田／モデルナ社のワクチンにおいては、様々な変異スパイクタンパク質に対し、ワクチンを接種した人の血清中の抗体が中和活性を有するかが確認されました。

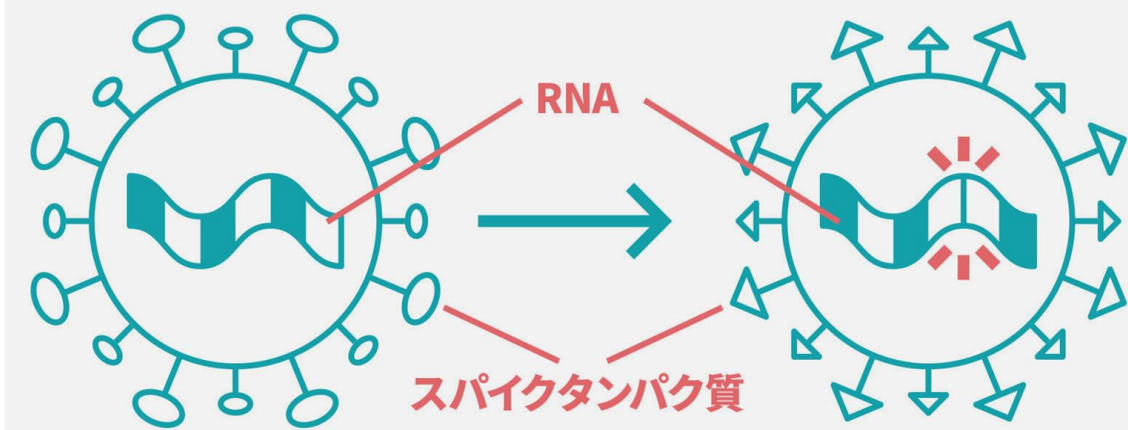
その結果、B. 1. 351（ベータ株。南アフリカ共和国で最初に検出された系統）への中和作用が少し弱いものの、いずれの変異に対しても一定の中和活性があることが確認されています。また、5月25日付けのWHOの報告では、ベータ株に加え、P. 1（ガンマ株。ブラジルで最初に検出された系統）でも、中和活性はみられるものの、少し低下する旨の報告がありました。

もう一つは、実際にワクチンを接種した人と、接種していない人の感染や発症の状況を調べる方法です。例えばファイザー社のワクチンは、B. 1. 1. 7（アルファ株。英国で最初に検出された系統）ではワクチンの有効率に大きな低下は見られませんでした。B. 1. 351（ベータ株）やB. 1. 617. 2（デルタ株。インドで最初に検出された系統）では、有効率が少し低下するものの、ワクチンは有効であったという報告もありました。

ただし、このような実臨床での観察研究等は、流行状況など別の要因が結果に影響するなど、結果に偏り（バイアス）が生じやすいことから、結果の解釈に留意が必要です。

現在、変異株に対応したワクチンの開発や臨床試験も実施されています。世界各国で様々な変異株が出現していることを踏まえると、引き続き、ワクチンの有効性に関する情報を収集していく必要があります。

ウイルスの変異 (イメージ)



3) ワクチンの安全性と副反応

Q 9 ファイザー社のワクチンと、武田／モデルナ社のワクチンの安全性には違いがありますか。

A いずれも、安全性を確認した上で承認され、世界各国で接種されています。接種後の軽い副反応については、症状ごとの頻度等に多少の違いがみられます。

ファイザー社のワクチンと武田／モデルナ社のワクチンは、いずれも臨床試験で安全性を確認した上で承認され、既に世界各国で接種されています。

接種後の主な副反応として、いずれのワクチンも、接種部位の痛み、疲労、頭痛、筋肉痛、悪寒、関節痛等が報告されています。異なる臨床試験の結果を単純に比較することはできませんが、臨床試験の結果では、武田／モデルナ社のワクチンの方がこれらの副反応の発生頻度が5～20ポイント程度高く報告されているほか、接種から1週間くらい経った後に、接種した場所の痛みや腫れなどがみられることが報告されています。こうした症状の大部分は接種後数日以内に回復しています。さらに、いずれのワクチンも高い有効性があることを踏まえると、こうした軽い副反応の頻度の違いを重視するよりも、いずれかのワクチンを接種できる時に接種することをお勧めします。

Q10 これまでに認められている副反応にはどのようなものがありますか。

A 注射した部分の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛み等がみられることがありますが、こうした症状の大部分は、接種後数日以内に回復しています。まれな頻度でアナフィラキシー（急性のアレルギー反応）が発生します。

(ファイザー社のワクチンにおける臨床試験の主な結果は[こちら](#)、武田／モデルナ社のワクチンにおける臨床試験の主な結果は[こちら](#)、接種開始後の健康状況調査の結果は[こちら](#))

発現割合	症状	
	コミナティ(ファイザー社)	モデルナ(武田薬品)
50%以上	接種部位の痛み、 疲労、頭痛	接種部位の痛み、 疲労、頭痛、筋肉痛
10～50%	筋肉痛、悪寒、関節痛、 下痢、発熱、接種部位の腫れ	関節痛、悪寒、吐き気・嘔吐、 リンパ節症、発熱、 接種部位の腫れ、発赤・紅斑
1～10%	吐き気、嘔吐	接種後7日以降の 接種部位の痛みなど(※)

コミナティ添付文書、COVID-19 ワクチンモデルナ添付文章より

(※) 接種部位の痛みや腫れ、紅斑

その他のワクチン（アストラゼネカ社、ノバックス社が開発中）でも、ワクチン接種後に、ワクチン接種と因果関係がないものも含めて、接種部位の痛みや、頭痛・倦怠感・筋肉痛等の症状がみられたことが論文等で報告されています。

また、稀な頻度でアナフィラキシー（急性のアレルギー反応）が発生したことが報告されています。もし、アナフィラキシーが起きたときには、接種会場や医療機関ですぐに治療を行うことになります。

Q11 副反応は1回目より2回目接種後の方が強いと言われるのはどうしてですか。

A 1回目のワクチン接種でいくらか免疫がつくことで、2回目の接種の方が、免疫反応が起こりやすくなるため、発熱や倦怠感、関節痛などの症状が出やすくなります。

mRNA（メッセンジャーRNA）ワクチンの接種に伴う軽い副反応の症状は、1回目の接種後よりも2回目の接種後の方が頻度が高いことが分かっています。海外の臨床研究の結果に加え、ファイザー社のワクチンの場合、接種開始後に実施された健康状況調査でもその傾向がみられます。1回目の接種で新型コロナウイルスのスパイクタンパク質に対する抗体等ができます。そして2回目の接種時には、既にこれらの抗体等が誘導されていることから、接種された mRNA を基に体内で1回目と同じスパイクタンパク質が作られると、1回目より強い免疫応答が起こり、発熱や倦怠感などの副反応がより出やすくなります。

Q12 ワクチンを受けた後に熱が出たら、どうすれば良いですか。

A ワクチンによる発熱は接種後1～2日以内に起こることが多く、必要な場合は解熱鎮痛剤を服用するなどして、様子をみていただくことになります。

このほか、ワクチン接種後に比較的起きやすい症状としては、頭痛、疲労、筋肉痛、悪寒（さむけ）、関節痛などがあります。

ワクチンによる発熱か、新型コロナウイルス感染症かを見分けるには、発熱以外に、咳や咽頭痛、味覚・嗅覚の消失、息切れ等の症状がないかどうか手がかりとなります。（ワクチンによる発熱では、通常、これらの症状はみられません。）

ワクチンを受けた後、2日間以上熱が続く場合や、症状が重い場合、ワクチンでは起こりにくい上記の症状がみられる場合には、医療機関等への受診や相談をご検討ください。

Q13 アナフィラキシーではどのような症状が出ますか。治療法はありますか。

A 皮膚症状、消化器症状、呼吸器症状が急に起こり、血圧低下や意識レベルの低下を伴う場合もあります。薬の注射などで治療します。

薬や食物が身体に入ってから、短時間で起きることのあるアレルギー反応です。

じんま疹などの皮膚症状、腹痛や嘔吐などの消化器症状、息苦しさなどの呼吸器症状が急に起こります。血圧低下や意識レベルの低下（呼びかけに反応しない）を伴う場合を、アナフィラキシーショックと呼びます。

アナフィラキシーは特定のワクチンだけに起きるものではなく、様々な医薬品やワクチンの投与後に報告されています。例えば、インフルエンザワクチン接種後の副反応疑い報告では、因果関係があるかどうか分からないものも含め、1シーズンで約20件のアナフィラキシーが報告されています。

予防接種後に、息苦しさなどの呼吸器症状がみられれば、接種会場や医療機関で、まずアドレナリン（エピネフリン）という薬の注射を行います。その後、症状を軽くするために、気管支拡張薬等の吸入や抗ヒスタミン薬、ステロイド薬の点滴や内服なども行います。

接種後に、もしアナフィラキシーが起こってもすぐに対応が可能なよう、予防接種の接種会場や医療機関では医薬品などの準備をしています。

Q14 接種後の「失神」や、その原因ともいわれる「血管迷走神経反射」とは何ですか。

A 血管迷走神経反射は、緊張やストレスなどで起きる、血圧の低下、脈拍の減少などのことです。

失神とは、一時的に脳への血流が減少することで意識を失うことを指します。その原因として最も多いのが血管迷走神経反射によるものです。血管迷走神経反射では、様々な原因によって副交感神経が活発になり、血圧の低下、脈拍の減少などが生じます。睡眠不足

や疲れている時、長時間立っている時、痛みや緊張などの精神的ストレスを感じた時などに、血管迷走神経反射は起こりやすくなります。失神する前に、通常、頭がふらふらしたり、吐き気、発汗などの症状を伴います。血管迷走神経反射自体は、横になって休むことなどで治るので、特に健康上大きな問題になることはありませんが、転倒により怪我をしてしまわないよう注意が必要です。

緊張や痛みなどのストレスによって、血管迷走神経反射は、新型コロナワクチンに限らず、ワクチン接種時や血液検査の際に生じることがあります。ワクチン接種前には十分な睡眠をとり、接種後15分は椅子に座る、体調が優れない場合は体を横たえるなどの予防が重要です。

また、ワクチン接種や採血の時に、血管迷走神経反射が起こり、気分が悪くなったり失神等を起こしたことがある方は、予診の際にその事を伝え、横たわって接種を受けたり、接種後は30分程度様子を見るなどの対策を取りましょう。

Q15 ワクチン接種後に血栓症が起きると聞いたのですが大丈夫でしょうか。

A 海外で接種が行われているアストラゼネカ社のワクチンでは、稀に珍しいタイプの血栓症が起きるという報告がありますが、適切な診断・治療方法も報告されています。

なお、ファイザー社や武田/モデルナ社の mRNA（メッセンジャーRNA）ワクチンでは、現時点では、同様の血栓症と関連性があると評価された事例は確認されていません。

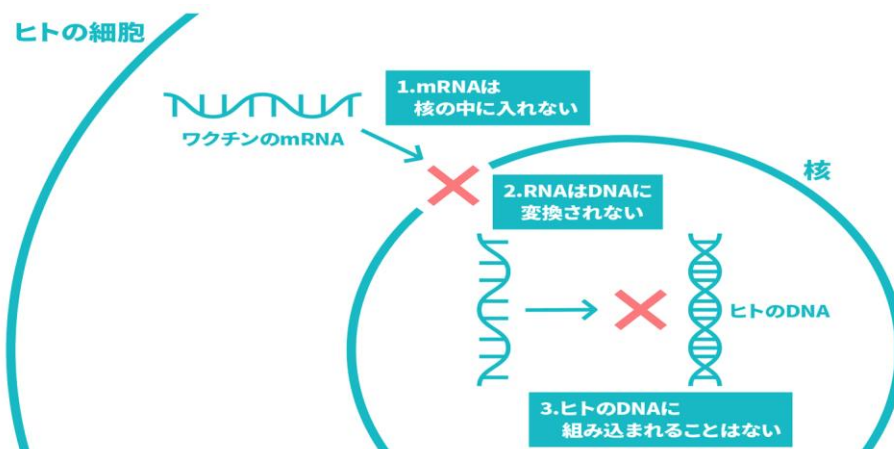
Q16 mRNA（メッセンジャーRNA）ワクチンはワクチンとして遺伝情報を人体に投与することで、将来の身体への異変や、将来持つ予定の子どもへの影響を懸念しています。

A mRNA（メッセンジャーRNA）ワクチンで注射する mRNA は短期間で分解されていきます。人の遺伝情報（DNA）に組みこまれるものではありません。

mRNA（メッセンジャーRNA）ワクチンで注射する mRNA は、数分から数日といった時間の経過とともに分解されていきます。また、mRNA は、人の遺伝情報（DNA）に組みこまれるものではありません。身体の中で、人の遺伝情報（DNA）から mRNA がつくられる仕組みがありますが、情報の流れは一方通行で、逆に mRNA からは DNA はつくられません。

こうしたことから、mRNA を注射することで、その情報が長期に残ったり、精子や卵子の遺伝情報に取り込まれることはないと考えられています。

このような一般的な科学的な知見だけでなく、薬事承認に当たっては、動物試験や臨床試験の結果に基づいて安全性を評価し、審査を行っていきます。



Q17 副反応による健康被害が起きた場合の補償はどうなっていますか。

A 健康被害が予防接種によるものであると厚生労働大臣が認定したときは、予防接種法に基づく救済（医療費・障害年金等の給付）が受けられます。

一般的に、ワクチン接種では、一時的な発熱や接種部位の腫れ・痛みなどの、比較的よく起こる副反応以外にも、副反応による健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が生じることがあります。極めて稀ではあるもののなくすることができないことから、救済制度が設けられています。

認定にあたっては、予防接種・感染症・医療・法律の専門家により構成される国の審査会で、因果関係を判断する審査が行われます。

新型コロナワクチンの接種についても、健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく救済を受けることができます。なお、健康被害救済の給付額は、定期接種のA類疾病と同じ水準です。

4) 私は接種できますか？

Q18 ワクチンを接種することができないのはどのような人ですか。

A 一般に、以下の方はワクチンを接種することができません。ご自身が当てはまると思われる方は、ワクチンを接種しても良いか、かかりつけ医にご相談ください。

- ・明らかに発熱している方（※1）
- ・重い急性疾患にかかっている方
- ・ワクチンの成分に対し、アナフィラキシーなど重度の過敏症（※2）の既往歴のある方
- ・上記以外で、予防接種を受けることが不適当な状態にある方

(※1) 明らかな発熱とは通常37.5℃以上を指します。

(※2) アナフィラキシーや、全身性の皮膚・粘膜症状、喘鳴、呼吸困難、頻脈、血圧低下等、アナフィラキシーを疑わせる複数の症状。

Q19 ワクチンを接種するのに注意が必要なのはどのような人ですか。

A 一般に、以下の方はワクチンを接種するに当たって注意が必要です。当てはまる方は、予診票に記載をしていただいた上で予診を行います。

- ・過去に免疫不全の診断を受けた人、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ・心臓、腎臓、肝臓、血液疾患や発育障害などの基礎疾患のある方
- ・過去に予防接種を受けて、接種後2日以内に発熱や全身性の発疹などのアレルギーが疑われる症状がでた方
- ・過去にけいれんを起こしたことがある方
- ・ワクチンの成分に対して、アレルギーが起こるおそれがある方

ワクチン接種は体調のよいときに受けるのが基本ですので、特に基礎疾患のある方は、病状が悪化していたり、全身が衰弱している場合は避けた方がよいと考えられます。ご心配な方は、かかりつけ医にご相談ください。

Q20 私は持病を持っていますが、ワクチンを接種することはできますか。

A 慢性的な病気のある方もワクチンを接種できる場合が多く、むしろ、コロナウイルスに感染した場合、重症化するリスクが他の方よりも高いため、優先接種の対象となっている方も多くいらっしゃいます。

一方、ワクチン接種は体調のよいときに受けるのが基本ですので、病状が悪化していたり、全身が衰弱している場合は避けた方がよいと考えられます。かかっている病気によっては、次のような点に注意しましょう。



- ・ 高血圧や糖尿病、喘息、肥満、心筋梗塞、心不全、腎臓の病気などの基礎疾患があっても、ワクチンを接種することができます。新型コロナウイルスに感染した場合、重症化するリスクが他の方よりも高いため、こうした病気の治療等のために通院・入院されている方は、「基礎疾患を有する者」として優先接種の対象となっています。
- ・ がん、骨髄移植や臓器移植後、先天性免疫不全、HIVに感染している方などは、一般的に免疫力が低下する傾向にあると考えられます。免疫力が低下している方は、かかりつけの医師に接種の可否を相談する必要がありますが、新型コロナウイルスに感染した場合には重症化するリスクが他の方よりも高いため、他に接種してはいけない理由がなければ、一般的に接種が勧められています。

なお、mRNA ワクチン、ウイルスベクターワクチンには新型コロナウイルスそのものが含まれているわけではないので、免疫が低下していることが原因でワクチン接種により新型コロナウイルスに感染することはありません。

一方で、ワクチンの有効性は接種を受ける方の免疫応答に依存するため、免疫が低下している方では他の方よりも予防接種の効果が低い可能性があります。ワクチンを接種した後も引き続き感染流行が続いている間は、マスクや手洗い、ソーシャルディスタンスを継続することが重要です。

- ・ 血友病など血が止まりにくい病気のある方は、筋肉内出血のリスクがあるため、接種後に、接種部位を圧迫していただく必要がありますが接種は可能です。主治医とご相談をお願いします。
- ・ けいれん発作が起こる方も、けいれん発作状況がよく確認されており、病状と体調が安定していれば、主治医と相談の上、接種することができます。子どもの頃に熱性けいれんを起こしたことのある方も、接種することができます。発熱によってけいれん発作が生じやすい方については、接種後に熱が出た場合の発作予防策や発作時の対策をあらかじめ主治医と相談しましょう。

Q21 過去にアレルギー反応やアナフィラキシーを起こしたことがあり、今回も起こすのではないかと心配なのですが、接種を受けても大丈夫でしょうか。

A 食物アレルギー、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎や花粉症、じんま疹、アレルギー体質などがあるといった理由だけで、接種を受けられないわけではありません。また、接種するワクチンの成分に関係のないものに対するアレルギーを持つ方も接種は可能です。

ただし、これまでに薬や食品など何らかの物質で、アナフィラキシーなどを含む、重いアレルギー反応を起こしたことがある方は、接種直後に調子が悪くなったときに速やかに対応ができるよう、接種後、通常より長く（30分間）接種会場で待機していただきます。

過去にアレルギー反応やアナフィラキシーを起こしたことがある方は、予診票にご記入いただくとともに、原因の医薬品等やその時の状況をできるだけ詳しく医師にお伝えください。重いアレルギーで医療機関にかかっている場合には、接種の可否について事前に相談することをお勧めします。

Q22 新型コロナウイルスに感染したことのある人はワクチンを接種することはできますか。

A 既にコロナウイルスに感染した人も、新型コロナワクチンを接種することができます。むしろ接種を推奨している国もあり、これは、このウイルスが一度感染しても再度感染する可能性があることと、自然に感染するよりもワクチン接種の方が新型コロナウイルスに対する血中の抗体の値が高くなることが報告されているからです。

感染後や治療後は、接種まで一定の期間をおく必要がある場合もありますので、いつから接種できるか不明な場合は、主治医にご確認ください。

なお、事前に感染したかどうかを検査して確認する必要はありません。

また、感染歴のある方に接種すると、感染歴のない方に接種した時よりも、高い抗体価を得られたという報告はありますが、1回の接種で十分な効果が得られるかどうかはわかっていません。

一方、発熱といった全身性の副反応や、接種部位の痛みといった局所の副反応が、感染歴のない方と比べると高い割合で発現するといった報告もあります。

5) 接種を受ける方法

Q23 接種券に有効期限はありますか。ワクチン接種を一度見送りましたが、後日、接種を受けたいと考えています。

A 接種が受けられる期間は、現在、令和3年2月17日から令和4年2月28日までを予定しています。この期間内であれば有効期限はありません。 ワクチン接種を一度見送ったが、後日接種を希望する場合も接種は可能です。改めて接種の予約を行い、接種券をお持ちになって接種会場にお越しください。

医療従事者や高齢者が、ご自身の接種の時期に優先接種を受けなかった場合にも、次の順位の方の接種が始まった後に接種を受けることができます。 接種券は、医療従事者以外は同じものを使用していただくため、再発行は不要です。それぞれの優先順位の方が接種できる時期については、住民票のある市区町村のホームページや広報をご覧ください。

Q24「基礎疾患を有する者」に当てはまることを証明するために、診断書は必要ですか。

A 診断書等は必要ありません。予診票に記載していただき、必要があるときは、問診で病
気や治療の状況などを確認します。

Q25 未成年の接種の場合、親の同意書は必要ですか。

A 12～15歳の接種においては、原則、保護者の同伴が必要となります。予診票に保護者の
署名が必要となり、署名がなければワクチンの接種は受けられません。

なお、中学生以上の場合、接種医療機関（接種会場）が認める場合（※）には、保護者
が説明書を読み、予診票に保護者が自ら署名することによって、保護者の同伴がなくても
ワクチンを接種することができます。（12歳の小学生は保護者の同伴が必要です）

その場合、予診票の「電話番号」記載欄に、緊急連絡先（予診や接種の際に必ず保護者
と連絡のつく電話番号）の記載も必要となります。

（※）保護者の同伴が必要ない旨の案内をしている場合に限りです。

6）対象者や優先順位

Q26 子どもはワクチンを接種することができますか。

A 予防接種法に基づく公費での接種の対象は、接種の日に満12歳以上の方です。このた
め、12歳に満たない方は、新型コロナワクチンの接種の対象にはなりません。

ファイザー社のワクチンについては12歳以上、武田／モデルナ社のワクチンについては
18歳以上が接種対象となっていますので、18歳に満たない方は武田／モデルナ社のワクチ
ンは接種することはできません。

なお、接種の対象者は、現時点の科学的知見に基づいて決められており、日本において
も、今後、接種の対象年齢が広がる可能性があります。

ファイザー社の新型コロナワクチンでは、海外での臨床試験結果を踏まえ、令和3年6月1
日より、当初16歳以上であった接種対象年齢を12歳以上に引き下げ、対象者を拡大するこ
とになりました。また、生後6ヶ月～11歳を対象とした臨床試験も海外で実施されていま
す。

武田／モデルナ社の新型コロナワクチンでも、海外で、12歳以上の小児に関する臨床試
験や、生後6ヶ月～11歳を対象とした臨床試験も実施されています。

また、アストラゼネカ社の新型コロナワクチンでは、18歳以上に対して薬事承認されて
おり、今後、予防接種法に基づく接種の対象年齢が検討される予定です。

Q27 新型コロナワクチンの接種を望まない場合、受けなくてもよいですか。

A 接種は強制ではなく、あくまでご本人の意思に基づき接種を受けていただくものです。

新型コロナワクチンについては、国内外の数万人のデータから、発症予防効果などワクチン接種のメリットが、副反応などのデメリットよりも大きいことを確認して、皆さまに接種をお勧めしています。しかしながら、接種は強制ではなく、あくまでご本人の意思に基づき接種を受けていただくものです。接種を望まない方に接種を強制することはありません。また、受ける方の同意なく、接種が行われることはありません。

職場や周りの方などに接種を強制したり、接種を受けていない人に差別的な扱いをすることのないよう、皆さまにお願いしています。仮にお勤めの会社等で接種を求められても、ご本人が望まない場合には、接種しないことを選択することができます。

7) 接種後の生活

Q28 ワクチン接種後、生活上で注意することはありますか。

A ワクチンを接種した後は、接種部位の痛みが出たり、倦怠感、発熱、頭痛や関節痛などが生じることがあります。このような症状が出たときのために、できるだけ接種当日や翌日に無理をしないですむように予定を立てておくとういでしょう。

これらの症状は、たいてい数日以内に軽快することが分かっています。

ワクチンを受けた当日は、激しい運動や過度の飲酒などは控えましょう。接種部位については、清潔に保つよう心がけてください。

Q29 ワクチンを接種した日は、お風呂に入れますか。

A ワクチンを接種した日に入浴することに特別な問題はないと考えられます。注射した部位を強くこすらないようにしましょう。

ワクチンを接種した後に、入浴した場合としなかった場合での、免疫のつき方や、副反応の違いなどを比較した研究はありませんが、入浴により何か不具合が起きる可能性は低いと考えられます。

Q30 ワクチンを接種した後も、マスクは必要ですか。

A ワクチンを接種した方は、新型コロナウイルス感染症の発症を予防できると期待されていますが、ワクチンを接種した方から他人への感染をどの程度予防できるかはまだ分かっていません。また、ワクチン接種が徐々に進んでいく段階では、すぐに多くの方が予防接

種を受けられるわけではなく、ワクチンを接種した方も接種していない方も、共に社会生活を営んでいくことになります。

このため、引き続き、皆さまに感染予防対策を継続していただくようお願いします。

具体的には、「3つの密」の回避、マスクの着用、石けんによる手洗いや手指消毒用アルコールによる消毒の励行などをお願いします。

8) その他

Q31 今回のワクチン接種の「努力義務」とは何ですか。

A 今回の予防接種は感染症の緊急のまん延予防の観点から実施するものであり、国民の皆様にも接種にご協力をいただきたいという趣旨で、「接種を受けるよう努めなければならない」という、予防接種法第9条の規定が適用されています。この規定のことは、いわゆる「努力義務」と呼ばれていますが、義務とは異なります。接種は強制ではなく、最終的には、あくまでもご本人が納得した上で接種をご判断いただくこととなります。

予防接種法に基づいて行われる定期接種の多くのもの（4種混合、麻しん、風しんの予防接種など）にも、同じ規定が適用されています。新型コロナウイルス感染症に係る予防接種については、「予防接種法及び検疫法の一部を改正する法律」（令和2年12月9日施行）により、同法の規定を適用することとなりました。

Q32 SNS やニュースでコロナワクチンが危険と取り上げられていて不安です。どの情報を信じたらいいのでしょうか。

A SNS やメディアでは、新型コロナワクチンに関して様々な情報が溢れています。特に、SNS では発信者が不明、または科学的根拠や信頼のおける情報源に基づいていない、不正確な情報があり注意が必要です。

例えば、ワクチンを受けた後に起きた好ましくない出来事（有害事象）を、因果関係が分からないにも関わらず、あたかもワクチンが原因であるような書き方をしている情報もあります。ワクチンの安全性については、大規模な臨床試験だけでなく、承認後の安全性の監視システムによって常に調べられており、調査や評価の結果は国内外の公的機関から発表されています。

ワクチンの情報に関しては、複数の専門家のチェックを受けた、科学的根拠に基づいた情報発信をしている公的機関や団体などから情報を得ることをおすすめします。

例えば、こうした情報源としては以下のようなものがあります。

- ・ [厚生労働省 新型コロナワクチンについて／WEB サイト](#)
- ・ [首相官邸 新型コロナワクチンについて／WEB サイト](#)

Q33 ワクチンを接種する前にすでに免疫で守られている可能性はありますか。

A 自然免疫や他のウイルスに対する獲得免疫などによって、新型コロナウイルスに対する免疫が得られるかどうかは、まだ十分にはわかっていません。

今回の新型コロナウイルス感染症は、重症化する人がいる一方で、軽症や無症状で済む人も多くいることが知られています。新型コロナウイルスの感染予防や重症化予防について、自然免疫が重要な働きをしている可能性が示唆されています。

また、過去の他のウイルスへの感染や暴露によって獲得された免疫が、新型コロナウイルスに対する防御効果があるとする説もあります。しかし、他のウイルスに対する獲得免疫が、新型コロナウイルスに対してどの程度有効であるかはまだわかっていません。

新型コロナウイルス感染症に対する免疫を得るには、ワクチン接種により、自然免疫と獲得免疫を活性化させる事が最も有効です。

その他参考サイトなど

- ・ 厚生労働省 — [新型コロナワクチンについて](#)
- ・ 内閣官房 — [新型コロナウイルス感染症対策](#)
- ・ 首相官邸 — [新型コロナワクチンについて](#)
- ・ 日本小児科学会 — [新型コロナウイルス関連情報](#)
- ・ こびナビ (cov-Navi) — [ワクチンQ&A、動画・スライド \(みなさんへ\)](#)